

東京大学との共同研究 社会連携講座「糖尿病・生活習慣病予防講座」
の研究論文が複数の医学誌に掲載されました

朝日生命保険相互会社（代表取締役社長：木村 博紀、以下当社）と国立大学法人東京大学（総長：藤井 輝夫）は2018年4月より大学院医学系研究科に社会連携講座「糖尿病・生活習慣病予防講座」を開設し、日本国民の健康増進に資することを目的に、医療ビッグデータの解析やICTの活用を通じ、『生活習慣病の予防と重症化防止に資する効果的モデルの構築にむけた共同研究』を開始しております。

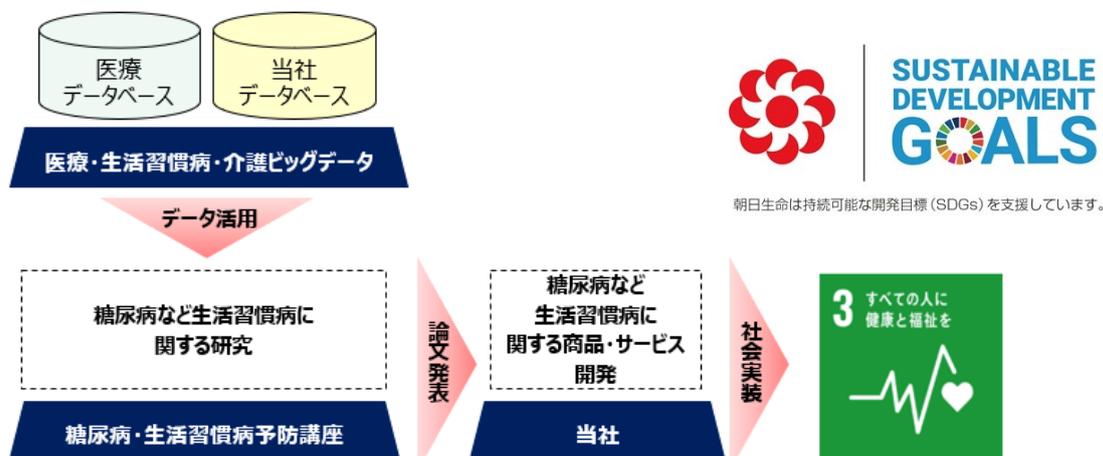
社会連携講座「糖尿病・生活習慣病予防講座」のこれまでの活動により別紙の通り、複数の研究論文が医学誌に掲載されましたので、お知らせします。

特に「健診での糖尿病指摘後に医療機関受診をしない集団を機械学習により予測」（別紙②）の研究成果は、糖尿病の合併症予防を目的とした政策立案に大きく貢献するエビデンスとなることが期待され、公共性の高い研究として日本のメディアにも取り上げられています。

また、当社は持続可能な社会の実現に貢献するサステナビリティ経営の取組みとして、健康長寿社会への貢献に向けた生命保険商品・サービスの提供を行うべく、2021年10月に共同研究の成果（別紙⑥）を活用して引受基準緩和型の介護保険『かなえる介護年金』を発売しました。[\(詳細はこちら\)](#)

当社は、引き続き社会連携講座「糖尿病・生活習慣病予防講座」の活動を支援するとともに、研究成果を活用して商品・サービス開発を行い、社会実装することで健康長寿社会に貢献していきます。

<共同研究のイメージ>



朝日生命は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

以上

【別紙】

< 2022年4月 >

① 「コロナ禍の他疾患の診療に対する影響の評価」

概要：日本国内の26施設のデータを含むデータベースを用いて、2020年11月までのコロナ禍の他疾患の診療への影響を俯瞰的に調査。2020年11月までの疾患別の入院、外来、処方、処置等の件数をコロナ禍前（2017年～2019年）と比較した結果、小児科の入院、外来件数が著減し、呼吸器疾患をはじめとする入院件数や内視鏡検査、リハビリ件数が減少した一方で、化学療法や透析療法はほとんど変わっていないことがわかった。今後、これらの影響について、その原因を詳しく調査し、長期的な影響も評価していくことが、他疾患の診断や治療の遅れを防ぐことにつながると考えられる。

*本研究は、令和2年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業「新型コロナウイルス感染症に対応した新しい生活様式による生活習慣の変化およびその健康影響の解明に向けた研究—生活習慣病の発症および重症化予防の観点から—」（JPMH20CA2046）の助成を受け、門田守人日本医学会連合会長のプロジェクトによって実施されたものです。

雑誌名：BMJ Open（オンライン版：4月25日）

論文タイトル：Impact of COVID-19 pandemic on health care service use for non-COVID-19 patients in Japan: retrospective cohort study

著者：Satoko Yamaguchi, Akira Okada, Shinji Sunaga, Kayo Ikeda Kurakawa, Toshimasa Yamauchi, Masaomi Nangaku, Takashi Kadowaki*

② 「健診での糖尿病指摘後に医療機関受診をしない集団を機械学習により予測」

概要：特定健診などの生活習慣病の健診を受診した成人のうち、糖尿病の診断基準を満たし受診勧奨を受けるにも関わらず医療機関を受診しない（=未受診の）人を予測するモデルを、機械学習を用いて構築。13個の因子を用いた従来のモデルよりも、39個の候補から機械学習を用いて選んだ4個の因子のみを用いたモデルの方が、予測性能が高く、特に健診前の12ヶ月の医療機関利用月数が少ないことが、未受診の重要な予測因子であることを発見。少ない因子で効率よく未受診を予測出来ることにより、早期にハイリスクの集団を同定して介入することが可能になり、糖尿病の合併症を抑制するための医療政策立案に役立つ可能性がある。

雑誌名：Diabetes Care（オンライン版：4月18日）

論文タイトル：A machine learning-based predictive model to identify patients who failed to attend a follow-up visit for diabetes care after recommendations from a national screening program

著者：Akira Okada, Yohei Hashimoto, Tadahiro Goto, Satoko Yamaguchi, Sachiko Ono, Kayo Ikeda Kurakawa, Masaomi Nangaku, Toshimasa Yamauchi, Hideo Yasunaga, Takashi Kadowaki*

< 2021年9月 >

③ 「糖尿病患者の受診中断について」

概要：新規に健診で判明した糖尿病患者が、初回受診後に受診中断するかどうかを、ガイドライン推奨診療を受けるか受けないかの場合で比較検討した。

雑誌名：J Diabetes Investig

論文タイトル：Association between nutritional guidance or ophthalmological examination and discontinuation of physician visits in patients with newly diagnosed diabetes: A retrospective cohort study using a nationwide database

著者：Okada, A., S. Ono, S. Yamaguchi, H. Yamana, K. Ikeda Kurakawa, N. Michihata, H. Matsui, M. Nangaku, T. Yamauchi, H. Yasunaga & T. Kadowaki

< 2021年8月 >

④ 「インスリノーマの実態に関する全国規模の調査」

概要：インスリノーマで入院した患者を対象に、悪性インスリノーマと良性インスリノーマの患者背景や治療実態について調査した。

雑誌名：J Clin Endocrinol Metab

論文タイトル：Clinical characteristics and incidences of benign and malignant insulinoma using a national inpatient database in Japan

著者：Kurakawa, K. I., A. Okada, K. Manaka, T. Konishi, T. Jo, S. Ono, K. Uda, N. Michihata, H. Matsui, K. Fushimi, S. Yamaguchi, T. Yamauchi, M. Nangaku, H. Yasunaga & T. Kadowaki

⑤ 「透析患者の肝性脳症に対する分子鎖アミノ酸製剤の効果について」

概要：透析患者に肝性脳症を合併し入院した患者で、入院早期に分子鎖アミノ酸製剤を投与されるかどうかと、入院中死亡の関連を検討した。

雑誌名：J Ren Nutr

論文タイトル：Effect of Branched-Chain Amino Acid Infusion on In-Hospital Mortality of Patients With Hepatic Encephalopathy and End-Stage Kidney Disease: A Retrospective Cohort Study Using a National Inpatient Database

著者：Okada, A., H. Yamana, S. Yamaguchi, K. I. Kurakawa, N. Michihata, H. Matsui, K. Fushimi, M. Nangaku, T. Yamauchi, H. Yasunaga & T. Kadowaki

< 2021年6月 >

⑥ 「要介護状態と関連性のある因子の同定」

概要：国民生活基礎調査の匿名データを用いて、要介護状態と関連性のある疾患や自覚症状を同定した。

雑誌名：BMC Geriatr, 21, 374

論文タイトル：Factors associated with long-term care certification in older adults: a cross-sectional study based on a nationally representative survey in Japan

著者：Momose, A., S. Yamaguchi, A. Okada, K. Ikeda-Kurakawa, D. Namiki, Y. Nannya, H. Kato, T. Yamauchi, M. Nangaku & T. Kadowaki

< 2021年4月 >

⑦ 「糖尿病性ケトアシドーシスにおけるカリウムの補充について」

概要：糖尿病ケトアシドーシスで入院した患者で、初期治療としての輸液内のカリウム濃度と入院死亡率の関連を調査した。

雑誌名：J Clin Endocrinol Metab

論文タイトル：Potassium concentration in initial fluid therapy and in-hospital mortality of patients with diabetic ketoacidosis

著者：Okada, A., H. Yamana, K. Morita, Y. Sato, S. Yamaguchi, K. I. Kurakawa, N. Michihata, H. Matsui, K. Fushimi, M. Nangaku, Y. Toshimasa, H. Yasunaga & T. Kadowaki

上記の研究は、社会連携講座「糖尿病・生活習慣病予防講座」に所属している、あるいは過去に所属したことのあるメンバーが中心になって行った研究です。①-⑤および⑦の研究は、外部資金の助成を受けて行ったものであり、財源の詳細については各論文中に記載しております。